

聖書箇所: マタイの福音書27章1~10節

「絶望から抜け出る道」

【1】 イエス捕縛から死刑判決へ

- ・ イエス捕縛：弟子の一人ユダの先導により成功
- ・ イエスに下った死刑判決
 - ― 一夜中に行われた異例の裁判後
 - ― 祭司長たちの「イエスを死刑にする」目的の成就
- ・ ユダの後悔
 - ― 死刑判決が下ったイエスが「無実の人」であることの気付き
 - ― イエスを裏切ったことへの自責の念
 - ― 助けを求めに向かった先：祭司長たち

【2】 ペテロとユダ

- ・ 同じ裏切りと異なる結果
 - ― ペテロの場合
 - 「イエスのことばを思い出し…激しく泣」(マタイ 26:75)き、イエスのことばによりすぎた。
 - 再生し初代教会のリーダーへ
 - ― ユダの場合
 - 祭司長たちの元へ向かい「われわれの知ったことか。自分で始末することだ」と言われ、その通りにした。
 - 絶望の中で、自ら命を絶った

【3】 絶望から抜け出る道

- ・ 人間
 - ― 生まれながら罪の性質を持つ者
 - ― 誰も神の義を十分に行うことができない
 - ― 「自分の罪の責任を自分で取ることができる」 = 不完全な人間の傲慢
- ・ 罪のない神の子イエスが十字架で死なれた理由
 - ― 私たちが自分で自分の罪の責任を負うことができないため
 - ― 人間の罪を贖うためイエスがご自分の命を差し出された

▷後悔に押しつぶされそうになったとしても、変わらない愛を注がれたイエスの元に戻ってきましょう(ヨハネ13:1)。自分の殻に閉じこもるのではなく、神の憐れみを願い求め、神の前に泣き叫ぶこと。実は、それが絶望から抜け出る道です。

「神へのいけにえは 砕かれた霊。 打たれ 砕かれた心。
神よ あなたはそれを蔑まれません。」(詩篇51:17)

